

「わたぼうし新聞」(仮称) 創刊号

発行者 羽咋市中央町フ169-2

羽咋公民館内

「わたぼうし友の会」(仮称)

昭和60年(1985年)1月29日発行

人は昔わかりあえていた 文字やことばがなくても

人は昔わかりあえていた 心のともしびひとつで

.....

人はいつかみせかけのあかりを信じ 心のともしび忘れてしまった。

人はいつかいつわりのことばを信じ 心のともしび忘れてしまった。

.....

人は今かわろうとしている 自分たちの間違いに気づいたように

人は今もどろろろとしている 自分たちのいつわりをすてて

人は今本当のやさしさを求めて歩きだした。

人は今本当の強さを求めてはばたきだした。

~~~~~「ともしび」より~~~~

## ついに出る！！ 「わたぼうし新聞」(仮称)

読者のみなさんこんにちは。いかがお過ごしですか？。以前より「羽咋わたぼうし会」で検討中の「わたぼうし新聞」(仮称)がついに皆様のおかげで発刊となりました。厚くお礼申し上げます。幾人かの人たちに投稿の依頼をしました。原稿は順次2号以降に掲載していきたいと思えます。

## 原稿・ご意見・ご希望・募集中！！

交流の場を持ちたくても、傷害・仕事等々の理由で、機会ををもてない現実の中で紙面を通して、在宅障害者、施設の入所者、健常者とのつながりを作りたいと思えます。読者の方々によって作られてゆくものですので、原稿及び今後についてのご意見・ご希望をお寄せ下さい。

## 「施設職員だった頃をふりかえり」 元施設職員

僕はかつてある施設で働いていたことがあります。今当時の事をふりかえり反省させられることがいくつかあります。そのきっかけになったのは、地域でアパートを借りて生活している障害者の人達の介護や、ひまわり教室(心身障害児通園施設)に勤めるようになってからです。反省点として感じるのは、僕がいかに管理的であったかということです。介護やひまわり教室の介護をとおして、障害者の声をじっくり聴くこと、決して先回りし

て答えを出さないこと、こちらの考えをおしつけないこと、障害者の心にそった言動をとること。大まかにいって以上のようなことが当時の僕に欠落していたように思います。それらを一言でいうと、障害者の人権を尊重することになるでしょうか。ともかく共に生きていくという視点が職員の発想の段階からぬけおちていたなあ、ということ思う時、自分の犯した誤ちの大きさに律然としてしまいます。せめてこれからは、そういうことのないように生きてゆきたいと思います。

## 「年に一度の心の整理」

## 在宅障害者

“ここ数年は体の調子がすぐれないということですが、自宅で体調をみながら和裁を行っています。羽咋わたぼうし会にも入ってがんばっています。”

日記の長続きのしない私は年末になると一冊ノートを開いて書き始める。何気なくぼう然と月日を送っているようであっても思わぬ事が起きている。この一年をふりかえって我家は、友人との間は、お針の仕事は、そうして闘病ではどうだったろうか、というように大きくわけて書いている。

こうして、まとめて書くようになったきっかけは、57年のクラス会を最後にして姿を消してしまった友の死です。寂しいとも何ともいえないショックから立ち直るために、はしゃいで行った日のこと(会話も入れて)を書いておきたくペンを持ったのが始まりです。そのノートも今年で3年になり、1ページずつ読む度に良き思い出、悪い出来事も目にかんできます。いろんな事があった日々をふりむくように書いていこうとしている今日ですが、書くことによって心の整理にもなると思います。

## 団体紹介コーナー 「羽咋わたぼうし会」

1981年に日本海側で初のわたぼうしコンサートが開かれました。わたぼうしコンサートとは障害を持つ人たちが書いた詩にフォークソングのメロディをつけて歌うコンサートです。県内では1982年に松任、1983年に七尾と行われましたので、知っている方も多いと思います。羽咋わたぼうし会は、コンサートを企画した人、参加した人、見にこられた人等、有志によって、このつながりを大きく、広くという願いをもって作られた会です。

過去に障害を持つ人たち、健常者との合同ハイキング、キャンプ、クリスマスパーティ、車イスマップの予備調査等をやってきました。

会員数：24名

連絡先：羽咋市中央町 羽咋公民館内

羽咋わたぼうし会 ☎ 0767-22-6226

例会日：毎月第2,4月曜日 午後8時～9時30分

## 「ひろびろ作業所の紹介」

## 在宅障害者

読者のみなさん元気ですか？ 僕にとって去年は本当に至難の年だったと思います。入院するやら、糖尿病になるやら、いまだに病院通いの始末です。でも、いままでのように家にとじこもってばかりではありません。週に4回は「ひろびろ作業所」という所へ行っています。今回はこの作業所について皆さんに紹介したいと思います。当作業所は、一昨年の12月に開所されたばかりの無認可小規模通所作業所で、現在仲間が5人で、2人の指導員の下で毎日、廃品回収をしたり、洗濯バサミ、フキンなどの作業をしています。仲間といってもそれぞれ障害が違っているため、時には都合が悪い事もありますが、皆んなで励ましながらがんばっています。日課は、午前9時半までに出勤、10時に作業開始、4時まで作業して帰宅となります。平凡な毎日の繰り返しですが、(地域のすべての人々の理解と協力を得る目的から) 作業所が町の真ん中にあるので、色々な人々とふれあう機会が多く、時には仲間の会でカラオケ大会などの企画をしたりして、刺激のある充実した日々を過ごしています。

現在は作業所として借りているアパートが、老朽化のため取りこわされることになり、今年3月までに立ち退きを迫られていることから、金沢市に助成を求める署名運動を行い、二千五百名におよぶ署名陳情書を持って市長さんに交渉をしに行ったり、作業所建設のために二百万円募金といった背景はありますが、その中であって真剣に作業に取り組んでいる僕たちです。読者のみなさん、「ひろびろ作業所」はどんなところか一度見学に来られたらいかがでしょうか？。では、また。

※「ひろびろ作業所」について知りたい方は下記へ

〒920 金沢市平和町3丁目11-35

ひろびろ作業所

☎ 0762-42-8861

## 私の幸せ 在宅障害者

雲よ 雲たちよ

私の幸せ どこかに

落ちていませんでしたか？

風よ 風たちよ

私の幸せ どこかに

落ちていませんでしたか？

雨よ 雨たちよ もう私の前に

不孝を降らさないでおくれ。

雲よ、風よ、風たちよ、

私の幸せはこんできておくれ。

## 行事・催物紹介コーナー

皆さん、新聞やテレビでご存知のように、今春4月1日に能登地方で初の障害者施設がオープンします。要項は下記の通りです。

施設名：重度身体障害者援護施設 社会福祉法人 徳充会「青山彩光苑」

設置地：〒926 七尾市青山町ろ部22番地

目的：重度身体障害者を収容し、身体機能の回復をはかり、社会生活、家庭復帰に向けて種々の機能訓練、職業訓練及び能力の開拓を目的とする。

詳しく知りたい方、入所希望の方は、各地の福祉事務所、市町村役場にご相談下さい。なお、2号よりこのコーナーは各地の行事、いろんな情報を載せたいと思いますので、連絡をお待ちしています。

## 事務局だより

創刊号はいかがでしたか？。今年は雪が少ないといわれましたが、年末にドカッと降って昨年同様の除雪作業の日々を送る毎日です。建前や形式中心の中で本音で話し合い、通じあう場をこの新聞で是非実現したいと考えています。みなさんの絶大なるご協力をお願いします。第2号は3月下旬に発行の予定です。

なお、現在、当紙の新聞名、今後、掲載してゆく原稿を募集しています。詩、日頃思っていること、催しものなど自由ですが、紙面の都合上400字以内でお願いします。